

委員会の審査から

市議会には、4つの常任委員会が設置されており、本会議で付託された議案・請願、所管事務調査による行政報告等、各所管事項について詳細にわたり審査を行っています。その中から、各委員会の主な審査状況をお知らせします。

総務

3月18日、22日に議案8件、請願1件の審査を行いました。

観光振興費

市内の回遊性を高める
観光プロモーション
について

委員 地域回遊イベントということがあるが、予算が4500万円と非常に多いが、実際どういった事業を行っているのか。

観光まちづくり課長

これから業務委託をしていく形になります。その仕様として大きな項目についてお話をさせていただきます。1点目がイベントの総合プロデュース、2点目が実際のイベントの企画、実施になります。3点目は、イベントに関するプロモーション、広告という、大きくこの3点になっています。イベントの内容ですが、謎解きを中心とした、幅広い年齢層にかなり人気がありますので、謎解きをしながら地域のいろいろなところに回遊していくというような、ゲームをいろいろなイベントは行っていきたく思います。今、プロポータルで業者の募集をかけている最中ですので、細かい中身までは、まだ決まっていないところがあります。

委員

何月ぐらいからとか、そういった計画はあるか。

観光まちづくり課長

イベントの期間は22年7月から2月までで、コロナ感染の状況もあるので長期間にわたる

から市内を巡るような形でやりたいと考えています。
委員 対象の年齢とか年代は。

観光まちづくり課長

考えている対象については、やはり7月スタートということになりますので、まずはお子様を交えた家族連れを中心にスタートをしながらは考えています。実際にこれからプロポータルで業者を決める中で、明確なターゲットというのはまた絞り込んでいきたいと思います。

健康福祉

3月18日、22日に議案7件、請願2件の審査を行いました。

生活支援費

就労準備支援事業
について

委員 生活保護を受けている人でも高齢になって就労も無理な人もいますし、対象はどういう方で、アウトリーチ支援はどういうことを指すのか。

生活支援担当課長

すぐ就労や自立が困難な方に就労支援の場などを提供して、就労や自立に向けた支援を実施するというのがこの事業ですけれども、例えばひきこもりの方など社会との関わりに不安のある方が生活リズムを整える生活訓練とか、集団活動の経験などを積ませる社会訓練、技術習得訓練などを実施することにはなっています。

委員

特に年齢に関して、8050問題で言いますと、例えば50歳代ぐらいの方も対象にはな

り、まだ20歳前後の方も十分

対象にはなると。なかなか社会に出て行かれない、就労まで結びつかない方に対して手を差し伸べる、アウトリーチをするということがこの事業の目的となっています。

委員

生活保護課がそのまますべてではないと思うが、どういったところに委託をされるのか。アウトリーチということではやはり市が選ぶのかな知識が必要になってきますので、事業経験のある事業者に委託をする形になっていくと思われ。事業者には、例えば社会福祉士とか精神保健士とかキャリアコンサルタント、このような資格を持った方が動いていただく。窓口は生活保護課かもしれませんが、実際は委託先のほうでいろいろな動きをしていただく形になっていくかと思えます。

文教社会

3月18日、22日、23日に議案6件、請願2件の審査を行いました。

芹ヶ谷公園、芸術の杜、パークミュージアム推進事業について

委員 実施設計をこれからどういうふうに進めていくのか。タイムスケジュールを確か認させてもらいたい。

文化振興課担当課長

今後、芹ヶ谷公園・文化ゾーンネットワークの方々とは、今度のパークミュージアム会議で、溝が生じないように話し合いをしていこうと思っています。その上で、22年11月、12月をめどに実施設計を終わらせてその後、3月頃には契約できるようにしたいと考えています。

委員

運営の部分で、国際工芸美術館、国際版画美術館だけでなく、公園全体という話とか、文学館と「町田シバヒロ」との連携、そのあたり現時点での考え方は。

パークミュージアム担当課長

前回の国際工芸美術館の議論があったときに、単体で考えるのではなく、公園、国際版画美術館との連携をしっかりと図りながら相乗効果を出していきたいという指摘もありました。そういう前提で、運営の在り方としては、まさにパークミュージアム、

横串を刺して公園と美術館と連携していくというところを基本線に考えています。今の検討の中では、公園、美術館を一体的に整備し管理運営して魅力を高めるというチームの中に、文学館の指定管理、「町田シバヒロ」の管理を入れようかという議論には至っていないが、町の回遊とか魅力を高めるためのパークミュージアムであり、事業なので、今できることをして、町なかとの連携を図っていくような取組を進めていきたいと思っています。

委員会 で 附帯決議

委員会 で 附帯決議

文教社会常任委員会では、付託された案件のうち、第7号議案令和4年度(2022年度)町田市一般会計予算について、原案を可決すべきものと決し、採決終了後に左記の附帯決議を付すべきものと決しました。

記

第7号議案に対する 附帯決議

芹ヶ谷公園、芸術の杜、パークミュージアム推進事業のうち、(仮称)国際工芸美術館整備事業費については、芹ヶ谷公園・文化ゾーンネットワークをはじめとする地域との合意に至っておらず、実施設計も止まっている状況と確認している。今後、実施設計を地域関係者と合意を図りながら進め、基本設計の変更も取り得る状況で、予算の根拠となるものがない中で、唐突に予算提出されたことは理解できず、十分に審査できない状況にある。よって、市民へ

の説明の機会、市民から要望を受ける機会を広く公開した形で設けるとともに、地域住民及び関係諸団体等とも理解を深めることに努め、実施設計案など予算の根拠を議会に提示することを求める。

本会議の結果

3月25日の本会議において、第7号議案は賛成多数を持って可決されました。

建設

3月18日に議案9件、請願1件の審査を行いました。

循環型施設整備費

資源ごみ処理施設の
整備について

委員 相原の資源ごみ処理施設の物件補償費積算委託料と土地鑑定委託料が出ているが、スケジューリングにはこれからどうなっていくか。建設するまでの課題があれば、教えていただきたい。

循環型施設整備課担当課長

都市計画決定を22年2月28日に告示し、これから事業としてスタートさせるために都市計画法に基づく事業認可の申請を行うということで、東京都との調整に入っています。それが終わりましたら、今計上している物件補償費、土地の鑑定費を使い鑑定して、各地権者様と交渉に入っていくというところなんです。スケジューリングとしますと、土地の購入について、2年ほどかけて何とか買わせていただく、整備工事を進めていこうと考えているところなんです。そちらの土

地については、事業を行われている方もいらっしゃいます。いろいろとご事情が出てくると思いますので、そちらのほうとお話し合いがどのように進んでいくかが、まだ見通せないというところはあります。

委員

完成予定は、現時点ではいつ頃と踏んでいるか。
循環型施設整備課担当課長 25年度中を目指しているところなんです。

道路アセットマネジメント事業

道路施設の管理計画
改定及び策定について

委員 もう少し分かるように説明をお願いしたい。
道路政策課長 道路の資産をマネジメントしていく計画になり、これまでも施設の管理計画というのはそれぞれあります。3Dデータとかドローンを活用するとか、今まで全て人力でどうにかしてきたものをいろんな技術を使ってやっていくことができるかどうかという検証も含めて見直していくというところが大きな必要になっています。

委員

予測されている、期待されている効果はどのようなものがあるのか。
道路政策課長 経年化したものに大規模修繕の時代がやってくるというところで、どういう形で管理していくのがベストかも含めて、全体の総事業費を平準化していく行為が見込まれます。新しい手法を使うことにより、事業費が削減できる部分もありますし、平準化によって、いろいろな施設をうまく均等に予算を取っていくという形もありますので、財政的に負担のないように、適切な維持管理ができるような効果が見込めます。